第２回持続可能な部活動の在り方に係る有識者会議 あいさつ

皆さん　こんにちは。委員の皆様におかれましては、たいへんお忙しい中を本日は、第２回持続可能な部活動の在り方に係る有識者会議にご出席いただき、ありがとうございます。心より感謝申し上げます。

10 月に開催された第１回会議では、生徒のスポーツ環境の構築方法や教員の働き方改革などにおいて専門的な視点から貴重なご意見を賜りました。持続可能な部活動の在り方について、今後山梨県が進むべき方向性についてご示唆いただけたものと思っております。

本日は第１回の議論を踏まえ、山梨県ならではの「持続可能な部活動のための体制整備」の実現に向け、「地域部活動推進事業における拠点校の選考」や「部活動の負担軽減に係る取組」などについて、それぞれのお立場から改めて忌憚のないご意見をいただければ幸いです。生徒・教職員にとっての大きな部活動改革につながり、「やまなしモデル」となることを期待しているところであります。

さて今回も私事で恐縮ですが、野球部の顧問を終えて異動した二校目の勤務校で私は、男子バレーボール部の顧問になりました。練習試合の計画と引率だけの顧問でしたが、たいへん悩ましい問題がありました。それは、大会の試合で負けると顧問がそのコートの次の試合の副審を務めなければならないことです。

一回戦敗退の直後に副審を務める試合は実力差のあるチーム同士の対戦になることが多く、監督さんも穏やかにベンチに座っています。しかし一回でも勝ち上がり、副審をする試合が強豪校同士の対戦となると、監督さんは相当熱くなります。私は素人で笛を吹いて試合を止めることなどとてもできません。「おい、今のはタッチネットだろう！」。監督さんの怒号が耳に入ります。

自分のチームが一回戦で負けるとホッとする、そんなきわめてよくない心境にもなりかけた私ですが、業界の専門の先生方の中に心優しい先生がいて、いつも温かい労いの声をかけてくれました。気持ちの上で随分楽になり、私に気づけないタッチネットはタッチネットではない、と割り切ることにしました。

困難な状況というのは人の優しさに触れるまたとない機会である、これは部活動顧問の経験を通じてしみじみ思います。部活動の顧問というのは、務めている間は煩わしく面倒だな、というのが本音のところでもありましたが、技術指導できない顧問でもそれなりに務めれば、教員としての幅、ゆとり、余裕につながり（これは前回申し上げたことです）、子供だけでなく教員自身も成長する、そう思います。

偏った経験に基づく個人的な感想で失礼しました。委員の皆様、本日もよろしくお願いします。